

「古石篤子 さよなら会」にいらして下さった皆さまへ

2016年3月12日

SFC フランス語海外フィールドワーク奨学金へのご寄付のお願い

Bonjour !

皆様ご機嫌いかがですか。それぞれの分野でご活躍のことと思います。

さて、ちょうど2年前のこの日の日付で、私は皆様に「さよなら会」にいらして下さったことへのお礼のお手紙をお出ししました。時のたつのは本当に早いもので、あっという間に2年が過ぎてしまい、あのとき一緒にΘ（シータ）館の舞台でお話しくださった井上輝夫先生が昨年8月25日に帰らぬ人となってしまいました。1990年にSFCが発足する前の準備段階から一緒に新キャンパスの創設に汗を流した元同僚の死に遭い、私も人生の無常を深く心に刻む歳になったことを感じます。

さて、さよなら会の当日にもお知らせし、2年前の皆様へのお手紙にも書かせていただいた「フランス語海外フィールドワーク奨学金」について、再びこうしてお願いのお手紙を差し上げることをお許しください。この奨学金は単なる語学研修とは異なり、学んだフランス語を駆使して、フランス語圏の国々において自分の研究テーマをリサーチするためのもので、極めて意欲的なSFCらしい試みです。SFCで初めてフランス語を学び始めた学生でも、数年後にはそのフランス語能力を自分の専門領域に活かすことができるなんて、素晴らしいと思いませんか？「フランス語海外フィールドワーク奨学金」の設立の詳しいことに関しては、以下のURLをご覧ください。

<http://french.sfc.keio.ac.jp/home/フランス語海外フィールドワーク奨学金/>

この奨学金設立の目的は、上で述べたように「フランス語をつかって」リサーチする学生を育てるところにあります。それだけではありません。もうひとつ、SFCでフランス語を学んだ卒業生との絆を取り戻して、関係を深めることにあります。幸い初年度の2014年度には、卒業生も含め多くの方々のご好意により48万円が集まり、2名の学生を送り出すことができました。彼等は2015年の春季休暇中に、それぞれフランスとコンゴ民主共和国へ旅立ち、自らに関心のあるテーマを掘り下げて帰国しました。そして7月には三田キャンパスで、ご寄付を賜ったの方々をお招きして、派遣された学生によるフィールドワーク報告会を開催しました。その後の懇親会では、チーズとワインを

囲み、そこに集ったものの中で世代を超えた交流を深めることができました。二人の報告書は上記 URL にアップされていますので、ぜひご覧ください。

このようにこの奨学金は学生たち個人の可能性を広げるだけでなく、卒業生との絆も深めることに貢献してくれると考えております。後輩たちの成長を見守りつつ、私たちが少なくとも年に一回再会し、そして互いの近況を伝え合って交流することができれば、なによりの home coming の機会となり、これ以上の喜びはありません。また、ワールドワークに旅立った学生の研究や経験が、私たちに新たな発見や学びを与えてくれる可能性も大きいと確信しています。

皆様は徐々に社会で重要な役割を果たす時期にさしかかり、また、子育てや家庭の出費も嵩む年齢になってきているとは思いますが、どうか一口でもご寄付を賜り SFC フランス語セクションとの絆を再確認していただけたら嬉しく思います。もちろん「大口寄付」も大歓迎です！（笑）寄付の仕方の詳細についても上記 URL をご覧ください。

では、これからもどうぞ末永くよろしく願いいたします。またお目にかかれることを楽しみにしております。A bientôt, j'espère…

Très amicalement,

古石 篤子